

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271600746		
法人名	社会福祉法人 新上五島町社会福祉協議会		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	長崎県南松浦郡新上五島町青方郷1379番地1		
自己評価作成日	平成26年10月1日	評価結果市町村受理日	平成27年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成26年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御利用者が常に笑顔で過ごせるよう支援し、ともに生活をしている。具体的には、毎日の入浴や、散歩やドライブなどの外出、社協や地域の行事への参加を行い、生きがいを持てるよう支援している。また、さくら単独の大きな行事に「さくら祭り」と「さくら旅行」があり、家族や地域との交流の場となっている。そのような状況を「毎月の予定」や「さくら新聞」として定期的に発行し、家族や行政、推進会議の会員へ送付(持参)し周知していただくと共に、参加していただく事も多い。御利用者の身体への不安や、職員の精神的負担軽減のために訪問看護との契約も持続し、定期受診やターミナルケア時にも相談にのっていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ささやかな幸せ共に分かち合い、くらす我が家に、らんまんの笑み」を理念に掲げて、毎日のケアに取り組んでいる。ホーム内には暖簾や部屋の名札など手作り品が飾ってあり、家庭的な雰囲気である。以前の利用者が他界したあとも家族が気軽に訪問したり、事業所が企画する旅行に参加するなど良好な関係が続いていることは事業所の特長である。看取りについては、これまで数例の経験がある。家族、医師、訪問看護ステーション、職員が連携を取りながら、看取りに取り組んで来た過程の中で、職員はやりがいを感じている。その後も研修に積極的に参加し、知識の習得に努めている。管理者は、個人面談を通じて、職員の悩みや希望を積極的に理解しようと努め、労働環境の向上について配慮されている職場である。管理者は、県内の他のグループホームを見学し、優れた点を取り入れ、改善につなげており、質の向上に向かって努力を惜しまない姿勢は、高く評価できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	皆で理念を作り、憶え、さくら内に掲示し、いつも笑顔でいれるよう心掛けている。	理念は、職員が意見を出し合い作成している。新人職員には毎日の支援の現場で、理念を伝えている。皆で一緒に笑い合う場面を大切にする事、利用者を家族と思う事、時間割にこだわらず、利用者中心の日課を送る事などは、職員に浸透しており、毎日のケアで実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くに保育所や民家があり、散歩時など交流している。また、地域の人達との交流が途絶えないよう敬老会などの地域行事に参加している。	職員は利用者と社協主催のイベント、地域の運動会、餅つき大会、高齢者の集いに参加し交流している。事業所は中学生の体験学習、医学部、薬学部の実習生の受入など教育機関へ積極的に協力し、人材育成に貢献している。また、職員は地域の清掃活動に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	さくら内の行事の案内を出し、来ていただく事で、認知症の人の事を、理解して頂いている。また、年に1回程度、地域の方や学生向けの研修を実施している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者様の状況や活動を報告し、意見を頂き、それを月に1度開催するさくら会議でスタッフに伝え、サービスに活かしている。	2ヶ月に1回開催している。利用が終了した利用者の家族も含まれており、広く意見を求める姿勢が窺える。行事や講演会、旅行の行先について様々な意見があり、現在、家族も参加する食事会を検討中である。また祭りの進行方法についてのアドバイスは、次回開催の改善に繋がっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いたり、毎月のさくら便りを持参し、現状を伝えたり、認定調査時、相談にのって頂いたりしている。	日頃から行政には提出書類について指導やアドバイスを受けている。事業所は介護保険更新の際に、「さくら便り」を届けている。その他、行政担当課の人事異動の文書を受け取るなど、相互に良好な関係が築かれている。役場主催の認知症サポーター研修他様々な研修の案内がある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は、防犯上玄関の施錠を行うが、日中は常に開放している。利用者様が行いたいご事を、止めることなく、行って頂けるよう心掛けている。	ベッド柵、センサーマットは設置していない。過去にも設置した事はない。言葉による拘束については、命令口調の職員に対して、その場で管理者が厳しく指導している。昼間は施錠せず、一人でホームから出る利用者には、職員がさりげなくついて行き、納得するまでつきあう方針である。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の暴力に関しては、自分自身が注意するのはもちろんだが、周りのスタッフにも注意を促している。今年度、研修の参加はできていない。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては、2名の利用者様が利用している。成年後見制度に関しては、11月に研修案内が来ており、参加できるスタッフは参加する予定でいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、見学から詳しく説明し、疑問点などが残らないよう配慮している。また、改定などは、文書にて送付し、同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に話せる雰囲気作りを行うよう、努力している。また、玄関に苦情や要望を入れる箱を設置している。運営推進会議時、家族にも参加いただき、意見を頂いている。	日頃から家族の訪問が頻繁にあり、事業所とコミュニケーションが取りやすい関係である。来訪時に要望を聞き取っている。これまでに旅行の行き先や居室の家具の配置について意見を聞き取ったり、家族の得意な料理をメニューに取り入れた事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の際、意見や提案を伝えることが出来る。また、個別にも随時、意見や提案をすることが出来る。	勤務日数やシフトを決めるにあたっては、職員の個別事情を十分に考慮して作成している。また、個人面談を行い、職員からの要望や悩みを聞き取っている。物品購入についても直ぐに対応しており、職員が働きやすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来る範囲で、整備して頂いている。今年度は、来年着工にむけて、2階非常口の、整備の準備をして頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内は、事務所の閲覧できるところに置かれ、行きたい研修に行くことができる。町内の研修には、行けるスタッフはなるべく参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町の開催する勉強会などで、同業者と交流する機会が持てている。ニコねっとなどの同業者間の活動があるが、今年度は1度しか参加できていない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不穏時は、気持ちが落ち着くまで耳を傾けて、安心して頂けるよう努力している。日頃から、傾聴することを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	さくら入所前の状況や思い、これからの要望など、初期の段階で、本人や家族から詳しく伝えてもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	さくら入所申し込みから契約までに、他に方法はないのか、他サービス利用はできないのか、本人、家族を含めて話を行い、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にも掲げ、共に生活できるよう心掛けて いる。一緒に掃除したり、茶碗を洗ったり、 買い物に行ったり、普段の生活を共に行っ ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、家族の方にアドバイスを頂いたり、 本人を交えて一緒にどうしたらよいか話をし たりしながら、一緒に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	彼岸や盆の墓参り時、知人や親せきに連絡 を取り、地元で話をして過ごせるよう努めて いる。また、入所前に通っていたデイサービ スに遊びに行き、馴染みの方と話をする機 会を作っている。	年に2回墓参りの支援を行っている。正月や盆 は、外泊したり、日頃から家族と外出する人も いる。また別の施設の親戚に会いに行ったり、友人 や近所の人の訪問もある。神父やシスターが訪問 する事もあり、馴染みの人との関係が続くよう支 援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様間の性格等を把握し、座る位置を 考えたり、一緒にできるレクリエーションを考え たりして、孤立しないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、さくら祭りやさくら旅行の案内を出し、参加して頂いている。また、いつでも相談に乗ったりできるよう、会うたびに声をかけ、話をしたり、さくらに遊びにきて頂いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリング表や連絡帳を活用し、スタッフが共有して、利用者様が訴えたことを、実践できるよう努めている。	職員は利用者の耳もとでやさしく話しかけるなど、声掛けに配慮している。買い物等の急な申し出にも対応できるように職員の配置に余裕を持たせている。誕生日のプレゼントは、それぞれに欲しい物を聞いた上で贈っており、一人ひとりの意向を尊重した支援が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人カルテに、基本情報をつけ、スタッフが共有できるようにしている。また、話の中で聞いたことを、記録するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の中で、個々の出来ることをして過ごして頂いている。無理強いせず、本人本位で行えるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のモニタリング表の結果や、月に1回のさくら会議での話し合いで、利用者様のケアについて考え、介護計画を作成している。	本人と家族の意向を聞き取り、介護計画を作成している。作成したプランは実行したかどうかを毎日記録している。書式は誰が見てもわかりやすいように改善を重ねている。毎月の会議を経て、3ヶ月に1度見直している。骨折等の急変時には、随時見直しており、利用者一人ひとりの状況に合った計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテ、業務日誌、ひやりはっと帳に記入し、スタッフ間で共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常の介護以外に生まれるニーズに対応するため、フリーで動ける日を設けており、美容室に行ったり、地元へ出かけたり、柔軟に対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われる行事（敬老会など）への参加や、保育所との交流など、利用者様が楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは訪看契約を結び、小さいことまで相談できる関係が出来ている。担当になったスタッフは、家族にも他スタッフにも、情報は正確に伝えている。	利用者は総合病院である上五島病院をかかりつけ医としており、職員が受診支援を行っている。受診後は連絡帳へ記録し、特別な変化のある場合には家族へ知らせている。訪問看護ステーションより毎週訪問があり、医療に関して質問や相談ができる体制である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護職はいないが、隣接する社協の看護職に相談したり、訪看に相談している。訪看ノートを活用し、スタッフ間で共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、毎日見舞いに行き、状況をDrより聞き、HPノートを活用し、スタッフ間で共有している。地域連携室とは、密に連絡を取り、早期退院を促している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化に応じて、その都度カンファレンスを開き、Dr、訪看、本人、家族と共に方針を共有し、支援に取り組んでいる。	家族には、契約時に看取りについての文書をもとに事業所の方針を説明し、同意を得ている。過去に数例、看取りの事例があり、段階毎に家族との話し合いを重ねている。これまで医師と看護師の指導の下、看取りに取り組んで来た職員は意識が高まり、研修を積極的に受講している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防で開催されるAEDの講習に、全員が参加している。緊急時は、マニュアルに沿って対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回の消防立ち合いの避難訓練を行っている。その他の自主訓練は、現在までのところ開催されていない。	消防署立会の下、1回の夜間想定を含め、年に2回の訓練を行っている。食料の備蓄もある。また火元となりやすい場所のチェックを毎日実施している。但し、近隣の住民へ訓練参加の呼びかけを行っているが、実現には至っていない。また地震・風水害に対する訓練も実施していない。	消防訓練への近隣住民の参加がない為、今後呼びかけ方法の工夫をして、地域との協力体制を築いて行く事を期待したい。また、風水害に対する訓練も消防訓練と同様に実施する事が望まれる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できるだけ、ゆっくり、分かる言葉で話すよう心掛けています。利用者様の自尊心を傷つけないよう対応している。	利用者の呼び方は基本的にはさん付けであり、馴れ馴れしくならないよう管理者は職員に指導している。失禁等失敗した際は、自尊心を損なわないような声掛けを行っている。介護記録は所定の場所に保管しており、写真利用に関しては利用開始時に同意を得ている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	答えを早く出してもらおうとせず、考えてもらう時間を作るよう努めている。会話の中で、思いを感じ取り、自己決定できるよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、希望にそえるよう支援しているが、時間に追われ、できていない時もある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は(HP受診や行事など)マニキュアをつけたり、化粧をしたり、アクセサリーをつけたりと、オシャレに気を配っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お茶を入れて頂いたり、お皿を種類ごとに分けて頂いたり、茶碗を洗って頂いたり、個々に応じた事を一緒に行っている。	献立は作成しているが、当日利用者の希望等により変更する事もある。一緒に買い物に出掛けたり、下ごしらえを手伝う利用者もいる。出前や外食を楽しんだり、忘年会、誕生会と行事食も充実している。特に誕生会は月毎ではなく、それぞれ本人の誕生日に実施している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重は月に2回測定し、水分量は毎日チェック表を作り、正の字で記入し、把握している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方は、自分で口腔ケアをして頂き、他の方は介助で行っている。夕食後は義歯を外し、洗浄剤につけて頂いている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は2時間ごとに排泄誘導し、尿とりパットの使用量を減らすようにしている。夜間は、能力に応じてポータブルトイレを利用される利用者様もいるが、日中同様、時間誘導している。	一人ひとりの排泄チェック表をつけて、早めに誘導している。ポータブルトイレは夜のみ使用している。声かけや誘導するタイミングの工夫により、リハビリパンツから布パンツへ改善した例やパッドの枚数を減らした事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に、根菜や乳製品など取り入れたり、おなか周りの運動を実施したりしている。また、HPで相談し、便剤を使用されている利用者様もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、入浴できる環境を作っている。利用者様に応じて、男性を拒否される方は女性に対応したり、排便後そのまま入浴したり、個々に応じた支援をしている。	殆どの利用者が毎日入浴している。職員は入浴剤や音楽で利用者がリラックスできるよう工夫している。入院中の利用者を見舞った際にも、温タオルで顔や手を拭いている。重度の利用者は職員2人で介助し、湯船に浸かり入浴を楽しんでいる。脱衣所にはエアコンがあり、温度差がないよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、体調管理や習慣に応じて、居室に休まれる利用者様は休んで頂いたりしている。夜間は、空調や採光などに注意し、気持ちよく眠れるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診の都度、薬の変化がある場合はHPノートに記入し、個人カルテに添付している。また、誤薬がないよう、服薬時は個数を復唱し、チェック表に記入をし飲んで頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫い物をされていた方は縫い物、書くことをされていた方は書き物、調理が好きな方は調理下ごしらえなど、利用者様のしたいこと、できる事を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、ドライブに出て、行きたいところに行けるよう、努めている。行事などで、釣り大会や墓参りなど、家族に協力して頂いて、実施している。	普段は近所の商店へ買い物に出掛けている。車椅子の利用者は日光浴を兼ねて、施設の周りを散歩している。毎年の旅行には家族を含め、車椅子の利用者も参加している。花見や温泉へ出掛けたり、他施設との交流レクリエーション大会に参加したりと積極的な外出支援が行われている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、利用者様本人が、お金の所持をされている方はいない。家族が管理されているが、希望者はスタッフと買い物へ出かけたりされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、本人自ら電話することも可能だが、ほとんど希望者がいない。暑中見舞いや年賀状など、書ける利用者様はかかっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季に合わせて、雰囲気作りに努めている。室温や採光に配慮し、居心地良く過ごせるよう、工夫している。	玄関には手作りのさくら模様の暖簾が掛けられている。居室の入り口は刺繍された名札をはじめ、殆どの掲示物がアプリケ等を使った温かみのあるものとなっている。中庭から差し込む光が明るい廊下には、姿見がさりげなく置かれ、居心地良く暮らせる工夫が随所に見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたいと居室に入られる利用者様もいるが、ほとんどリビングで過ごされている。テレビを見たり、好きなことをしたりして、個々で自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇やマリア像など置かれたり、テレビやソファを置かれたりと、使い慣れたもの、見慣れたものを持ち込んで頂いている。	ベッドや収納家具は施設の備品であるが、各部屋のレイアウトは利用者の好みでそれぞれが自由に決めている。同じ配置の部屋はなく、本人、家族の意向や個性を尊重している。家族の写真が飾られたり、仏壇やマリア像も置かれ、本人にとって心安らぐ居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで手すりを設置し、できるだけ自力歩行をして頂いている。廊下には歩行を妨げるものを置かないようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271600746		
法人名	社会福祉法人 新上五島町社会福祉協議会		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	長崎県南松浦郡新上五島町青方郷1379番地1		
自己評価作成日	平成26年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御利用者が常に笑顔で過ごせるよう支援し、ともに生活をしている。具体的には、毎日の入浴や、散歩やドライブなどの外出、社協や地域の行事への参加を行い、生きがいを持てるよう支援している。また、さくら単独の大きな行事に「さくら祭り」と「さくら旅行」があり、家族や地域との交流の場となっている。そのような状況を「毎月の予定」や「さくら新聞」として定期的に発行し、家族や行政、推進会議の会員へ送付(持参)し周知していただくと共に、参加していただく事も多い。御利用者の身体への不安や、職員の精神的負担軽減のために訪問看護との契約も持続し、定期受診やターミナルケア時にも相談にのっていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が目に入るような場所に「理念」「目標」などを提示し理念を共有し実践に繋がるように一人一人が努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	他事業所のイベントにボランティアとして参加したり地域行事の敬老会や祭りなどに参加し交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症セミナーなどを通じて広く知って頂けるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や利用者にも参加して頂き、推進会議で出た意見等貴重な意見だという認識を持って、ミーティングを月1回(必要な時はその都度)行い周知しながら日々のサービスに反映している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎回の運営推進会議に参加してもらいながら、毎月発行する会報を市町村の担当者まで持っていき情報を交換している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関、扉などは開放し、外に出て日光浴やドライブなどを楽しまれている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一人一人の行動に関して疑問に思う事があれば尋ね、防止し虐待に繋がる事のないように努めている。また、言葉づかいにも配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業を活用し支援している。職員の中から生活支援員として活動し研修を受け学びながら関わっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い改定などの時は家族に文書を通して発信しきりもあればいつでも解答できるよう対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しいつでも意見を聞ける状態にしている。推進会議や面会に来られた時の意見、要望に対しミーティングで話し合い反映できるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回(必要あれば随時)のミーティングにおいて行われている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望する休みに合わせ勤務表を組み、夏季・冬季の休暇を交代でとれるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の状態や状況に応じた対応を柔軟に考え対処している。研修があれば積極的に参加して資質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修を通じて交流する機会を設けたり、同業者の開催するイベントに参加するなどして交流をはかっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様からもお話を聞く姿勢に心がけ、本人様の様子をみながら取り入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見、意思を尊重しサービスを提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の状態を見極め家族や病院（入院していた場合）側とどうしたら本人様にとって一番いいのかを検討したりする。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	手伝って頂けるところは積極的に協力していただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来るだけ面会に来て下さるよう働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に訪問し、地域行事などに参加し関係を続けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スムーズな関係を保てるよう見守り支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も「旅行」や「納涼祭」などに声をかけ参加して頂きながら関係を保っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の意向に添えるよう話を十分に聞きコミュニケーションをとりながら、思いに添えるよう努めている。また、本人が嫌がれば無理せず本人の意向に任せている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報を把握し情報を共有している。本人様の馴染みの物を居室に飾ったりして落ち着いてすごせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	見守りを通して把握し変化などあれば報告している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングで意見を出し合い計画書に反映するようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人様の言動や行動を含めた細かい記録を心がけている。また、その日の特記事項などは、必ず記入し状態変化を見逃さないように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の変化に伴う支援を心掛け、本人様や家族の状況や状況にあわせて柔軟に対応できるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設のまわりで得られる地域資源や各利用者様の出身地にある地域資源を利用しつつ本人の心身の力が発揮できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にはまたは、緊急時にも受診を行い適切な医療をうけている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問時に相談し解決えと繋げ、その都度電話でも相談するなど連携しながら利用者の状況安定を計っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側の連携室と密に連絡をとり施設側から働きかけるように努めている。病院側で行われる研修に参加するなど積極的に関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の時にターミナルケアについての説明は行うが状態変化に伴い再度の説明をし家族や本人様が思いのままに過ごしていただけるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に何回かは自施設または併設するDSの行う消防訓練に参加し研修にも積極的に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	消防訓練を定期的に行い実地する事で職員が見につけ、周辺の人への呼びかけをする事によって協力を得ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として言葉使いに注意し過剰な態度をとらないように気をつけている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩やドライブ、入浴など利用者様に希望を聞き、訊ね方にも工夫しながら本人様が選択できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何事も無理強いすることなく本人様のペースで行っている。希望があれば外出などは状態にもよるが行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出掛ける時の服装や普段着もその人らしさができるように工夫している。可能な方は美容室に行くなどして身だしなみやおしゃれに気を使っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを把握し、色のコントラストや主食、副食のバランスなどを考慮している。また、野菜の下ごしらえなどの準備に関わる事でその日の食事の楽しみを味わえるよう工夫して一緒にいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶が苦手な人にはスポーツドリンクや好みの物を提供するなどして十分な水分が摂れるようにしている。また、毎日水分量、食事量などをチェックし把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お茶や口臭対策として(モンダミン使用)を使い毎食後行っている。できるだけ御自身で行っていただきできない部分は介助しながら清潔を保てるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人様の自尿のパターンで行っているが、排泄の間隔が長い場合などは、声掛けのタイミングや仕方にも配慮し、リハビリパンツから防水パンツや布パンツに変えるなどの工夫をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動がなかなか足りないため好みの飲食物を取り入れたメニューの工夫を行っている。どうしても排便に至らない場合は各自の状態に応じて下剤を使用し便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本、毎日の入浴であるが夜間の入浴は勤務体制上なかなか難しい。本人様の希望に無理のないよう入浴していただけるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でもフロアで横になって頂いたり居室にてじゆうに休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様個々の病歴を職員一人一人が把握しどのような薬を飲んでいるのか把握している。状態が変わりくすりの追加などの変動があった場合は、職員全員が共有できるように連絡帳を活用し周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換のためにドライブ、散歩に出掛けたり買い物に出て職員と品物を選んだり、運ぶなどの役割を持ったりしている。それぞれが出来る事を職員で考え無理のないように一緒におこなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、可能な時は買い物に同行したりしている。また、家族や地域の方と相談し住み慣れた故郷に出向いて行ったり施設の地区の行事などに参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物ツアーなどではお金を持ち、お金の管理ができる入居者様にはできる範囲で行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物等あった時、お礼の電話などを必ず行い本人様にも電話口に出ていただくようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いつでも気持ちよく利用して頂けるよう清潔に保つことを心掛け整頓し、季節感を味わえるよう季節ごとに飾り物を考え変えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや長椅子などをもちいてそれぞれが過ごしやすい状態でいられるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の馴染みの物を家族と共に話し合いながら部屋に置くなど安心して過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人様にあった支援を職員間で共有し考慮しながら過剰にならないように配慮しながらサービスを提供している。		